

研究課題名	HBV 再活性化例に検出された B 型肝炎ウイルスの解析
研究の意義・目的	<p>B 型肝炎ウイルス (HBV) 感染患者または既往感染者において、免疫抑制・化学療法などにより HBV が再増殖することを HBV 再活性化と呼びます。HBV 再活性化による肝炎は重症化しやすいだけでなく、肝炎の発症により原疾患の治療を困難にさせるため大きな問題です。厚生労働省研究班では「免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎対策ガイドライン」を作成し注意喚起しています。</p> <p>この研究では免疫抑制・化学療法を受け HBV 再活性化が起こった患者の血液中のウイルスを調べて再活性化を起こす HBV の特徴を調べます。</p> <p>本研究は大阪公立大学が中心となって行う研究です。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～ 2024 年 12 月 31 日
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2012 年 12 月～2022 年 12 月に大阪公立大学医学部附属病院での HBV 再活性化に関する先行研究に参加いただいた患者さんの中で B 型肝炎ウイルスが検出された方。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>過去にご協力いただいた研究 (「HBV 再活性化に対する調査・予防に関する研究」承認番号 1243) および「HBV 再活性化に対する調査・予防に関する観察研究」承認番号 2021-271 でご提供いただいた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>試料：【血液】</p> <p>診療情報等：【年齢、性別、診断名、既往歴、家族歴、内服歴、免疫・化学療法を実施する原疾患および免疫・化学療法のレジメン、肝炎ウイルス検査を含む臨床検査データ、予後】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究では、愛知医科大学肝胆膵内科へ頂いた試料・情報を提供します。その際は、特定の個人を識別できない形で提供します。
この研究を行っている共同研究機関	<p>この研究は下記の共同研究機関と共に行います。</p> <p>愛知医科大学肝胆膵内科 伊藤清顕</p>
試料・情報を管理する責任者	<p>代表研究機関：大阪公立大学医学部附属病院・肝胆膵内科</p> <p>研究代表者：田守 昭博</p>
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学</p> <p>(担当者氏名) 田守 昭博</p> <p>電話番号：(06) 6645-3905</p>